

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|------|----|---------|----|-------|-------|-----|-----|
| 講義コード | 11C0117200 | 授業形態 | 講義 | 事前登録の有無 | なし | 担当教員 | 小畑 二郎 | 開講期 | 第1期 |
| 科目名 | 経済学史Ⅰ | | | | | 小畑 二郎 | | 第1期 | |
| 履修前提条件 | | | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | <p>経済学の歴史を概説し、経済思想の流れを説明する。これまでの経済学が、それぞれの時代のどのような問題に対して、どのように答えようとしてきたのかということについて理解させるようにする。そして経済学の多様な考え方の原点を明らかにする。</p> <p>カール・ポパーの科学哲学の考え方を経済学の歴史に適用する。また、スミスに始まる古典派経済学と限界革命以降の近代経済学、ケインズ経済学のエッセンスを分かりやすく説明する。</p> <p>経済学史Ⅰでは、古典派の経済学について講義する。</p> | | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>道徳哲学と経済学との総合を図ったスミスの思想から出発して、モラリスト・エキスパートとしての原理を経済学を通じて理解すること。それぞれの時代の問題に対して、適切な解決方法を考えることが経済学の目的であることを理解すること。経済学の歴史を通じて、生涯のテーマをもって生活する態度を身につけること。これらのことを、文章で表現できるようにすること。</p> | | | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | <p>授業中に紹介する文献を読んでくること。上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。</p> | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>【第1回】序論：経済学の歴史を理解することがなぜ大切なのか。</p> <p>【第2回】経済学の誕生前史：ヨーロッパの近代思想と政治経済思想</p> <p>【第3回】経済学の誕生：ホッブズ、ロック、スミスの思想と経済学の誕生</p> <p>【第4回】スミスの『道徳感情論』：モラリスト・エキスパートの原点</p> <p>【第5回】スミス『国富論』①諸国民の富と労働経済思想、分業と市場</p> <p>【第6回】スミス『国富論』②投下労働価値説と支配労働価値説</p> <p>【第7回】スミス『国富論』③3大階級への分配：自然的自由の体系</p> <p>【第8回】スミス『国富論』④資本と信用</p> <p>【第9回】スミス『国富論』⑤経済政策：重商主義批判と自由主義政策</p> <p>【第10回】リカードの経済学①投下労働価値説と資本・土地所有</p> <p>【第11回】リカードの経済学②分配理論と長期動態</p> <p>【第12回】リカードの経済学③現代に伝えられた命題：比較優位説等</p> <p>【第13回】リカードの経済政策</p> <p>【第14回】古典派経済学のまとめ：セイの法則と貨幣数量説</p> <p>【第15回】古典派経済政策：自由貿易主義と金本位制</p> | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 平常点と期末試験による。 | | | | | | | | |
| フィードバックの内容 | | | | | | | | | |
| 教科書 | 『経済学の歴史』小畑二郎（慶応義塾大学出版会）2014 | | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 『ケインズの思想』小畑二郎（慶応義塾大学出版会）2007、『ヒックスと時間』小畑二郎（慶応義塾大学出版会）2011 | | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 授業に出席して、よく理解し、質問をすること。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 木曜日の午後1時～5時 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | |